

高北維新

第65号

新春号

発行日

平成30年

1月10日

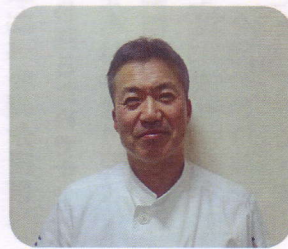


新年のあいさつ

院長

和田 幸久

ゆきひさ



新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

本年が、皆さまにとりまして、昨年以上に良い年であることをお祈り申し上げます。

昨年の話になりますが、11月5日に、平成29年度災害医療救護訓練が佐川町で行われました。この訓練は、中央西福祉保健所管内の公立3病院（土佐市民病院、仁淀病院、高北病院）が中心となり、毎年、持ち回りで実施しています。当日には、3病院の職員だけでなく、管内の医師、歯科医師、薬剤師、行政や保健所の職員、消防、警察、佐川町食生活改善推進協議会など、多くの関係者に参加していただきました。

当病院での初回訓練は平成27年2月15日でしたが、この時は、トリアージ・エリアの設置・エリア内での診療・情報伝達等とまどいもあり、反省点を多く残しました。今回の訓練では、看護部を中心

にエリア設置やトリアージ訓練を研鑽していたこともあり、小さい反省点はありましたが、比較的スムーズに行うことができました。しかし、災害はいつ起きるかわからないし、訓練のシナリオどおりであるわけありません。夜中に起きた場合には、訓練の時のように多くの職員の参加が見込めません。いつ災害が起きても対処できるように、日々の心構えと想像力、訓練の継続が必要なのは言うまでもありません。町民の皆さまが安心できるような病院をめざしていきます。

また、昨年の11月から3階病棟の改修工事が始まっています。現在の98病床を維持したまま、4階の病床を6床減らし、3階に地域包括ケア病床を6床増やします。病院全体として、3階が一般病床40床、地域包括ケア病床16床、4階が医療療養病床42床に変更となります。この改修工事の目的は、地域包括ケア病床を増やし、その病床機能を生かして、入院中、積極的にリハビリを行って、患者さんの在宅復帰をめざすためです。工事は、入院患者さんにご迷惑をおかけしないように、3期に分けて行います。1期工事（11/7～12/18）、2期工事

（12/18～1/11）、3期工事（1/11～2/28）の予定です。時代の流れに乗り遅れないように、また、佐川町立病院として、地域のニーズに合うように、これから病院運営について職員共々考えながら、前に進んでまいります。

現在、県に診療支援をしていただき、聖マリアンナ医科大学から3カ月ごとに新たな内科医師を派遣していただいております。当院の内科医師の業務負担が軽減され、また診療内容も充実し、非常に助かっております。紙面を通じまして、県の関係者の皆さま、聖マリアンナ医科大学の皆さまに改めて感謝申し上げます。

いろいろな面で、病院として不十分なところはあると思いますが、新たな気持ちで町民の皆さまの信頼を得るように、職員一同、取り組んでまいります。

看護局長

真辺 千穂

まなべ ちとせ



あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、新たなお気持ちで、健康やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年も、地域の病院として多方面にわたるご指導、ご協力、ご支援を賜りまして誠にありがとうございました。11月から3階病棟再編成工事のため病室が移動するなど、あわただしい年末となりましたが、工事も順調に進み、新しい年を迎えることができました。患者さんへの迷惑を最小限に抑えて、事故などに繋がらないよう職員一同努めてまいります。2月ごろまではご不便をおかけします。本年もどうかよろしくお願いいたします。

地域医療構想・地域包括ケアシステムの構築・整備が進む中、来年度は診療報酬と介護報酬の同時改定があります。佐川町・仁淀川上流域の地域包括ケアシステム唯一の公立病院として、住民の医療と暮らし地域での療養生活を安全に支える視点と行動が病院職員全てに求められます。これまで以上に地域・病院・診療所・職種の垣根を越えた連携と協働体制を確立して、地域への貢献を介して信頼され、地域の期待に応えるために、専門性を鍛え、総合的な技術の向上に努力して「平時も災害時も住み慣れた地域での暮らしを支える専門職」を目指します。

本年が、皆様方にとりまして明るい希望のある未来への実り多い1年となります。すことをご祈念申し上げますとともに、本年もよろしくご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

病棟改編について

事務局長 渡邊 公平
わたなべ こうへい

新年、あけましておめでとうございます。皆様は、新たな気持ちで素晴らしい新年を迎えることと存じます。私は、新しい年を迎えるたびに月日の流れの速さを感じております。

Time and tide wait for no man.
(歲月人を待たず。)

平成30年は、佐川町病院事業にとりまして極めて重要な年です。報酬削減をベースとする2年に一度の診療報酬の改定と3年に一度の介護報酬の改定が同時に行われるためです。

この診療報酬改定もはつきり見えてきましたが、報酬削減等医療を取り巻く環境は改定ごとに厳しくなっております。一方、今回の診療報酬改定では患者さんにとって安心・安全で納得できる効率的で質の高い医療を実現することがビジョンの一つになっていきます。

当院では、平成16年以来「地域から信頼される患者さんと病院職員の心のふれあいのある患者さん中心の医療の実践」を基本理念に患者さんと向き合ってきました。

医療費削減のための国の方針が当院にとっていかに厳しいものになろうともビジョンの実現に向けて、全職員が当院の基本理念の本旨を再認識し、日々の業務に全力で取り組んでいかなければならないと思っています。

次に、病床機能では今年地域で不足していると言われる地域包括ケア病床を6床増床して16床にし、在宅(自宅・施設)復帰支援を充実します。地域包括ケア病床とは、急性期治療を終了し、すぐに在宅へ移行するには不安がある患者さんや在宅療養中から緊急入院した患者さんに対して、在宅への復帰に向けて診療、看護、リハビリを行うことを目的とした病床です。また、地域で削減が必要だと言われる医療療養病床を6床削減して42床にします。これにより、看護職員と看護補助者が密度の濃い体制で医療の必要度が高い患者さんの長期療養にあたる事が出来るようになります。

今年は、患者さんにとって安心・安全で納得できる効率的で質の高い医療の提供と職員の働きやすい職場づくりに全力で取り組んでいきます。

本年も、何卒よろしくお願い申し上げます。

糖尿病教室便り

看護師 小野山 美喜
おのやま みき

当院の糖尿病教室では3回目のバイキングを開催しました。以前は模擬バイキングといって料理写真を選ぶスタイルでした。一度は本物のバイキングに挑戦してみようと始まったわけです。とりわけ管理栄養士さんと調理員さんなど栄養管理科の皆さんは大忙しになりました。

当院のバイキングでは、可能な方はご自宅で使用している御茶碗を持参して頂き、日頃、食している御飯の量をよそっていただき計測しています。それから、主食、副食、デザートを選び席につきます。この日ばかりは管理栄養士のお話も手短ですが参加者から、「よそったご飯の量が多いのではないか、はらはらした」と言葉を漏らされると会場は笑いに包まれました。大切なことはお野菜を豊富にバランスよく、よく噛んで無理のない程度に実践可能なことを取り入れることを伝えていきます。バイキングを通して、よく噛んで食することで満腹感が得られること、指示エネルギーでこんなにも食べられるんだ、少ない調味料とは思えない味付けだと感想をいただいています。

平成21年度から開催しています糖尿病教室は、病識を深め生活の場を振り返る機会になってほしいという思いで

これからも企画していきます。最後に、糖尿病食は適正なエネルギーを摂取するための食事ですので、どなたが食べても健康食です。



本物の料理でバイキング



1人前の食事の例

冬場の面会について

院内感染対策委員 小野 櫻
おの さくら

日に日に寒さが増してきて空気も乾燥してきており、今年もインフルエンザなど冬場の感染症の流行時期となりました。

当院の入院患者さんの多くが、こうした感染症に対し抵抗力が低く、肺炎などの合併症を起こしやすい高齢者の方々となっております。

当院ではそのような感染症から入院患者さんを守る方法として、この時期は県から毎週発表されます感染症発生動向調査を指標としてご面会の制限などを行っています。

入院患者さんやご家族の方にはご不便やご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

篠原医師離任のあいさつ

聖マリアンナ医科大学病院

神経内科医長

篠原 健介
しのはら けんすけ

まだ夏の名残のあった10月に赴任し、気づけば上着の欠かせない季節となつてしまいました。3カ月というあまりに短すぎる期間で、もっと佐川町にいたかったなと寂しさを感じております。高知県と神奈川県にある聖マリアンナ医科大学は地域医療支援プロジェクトを通して、3カ月という短い期間ではありますが、医師が地域医療の手助けと学びの場として出向しております。短期間で担当医・外来医が変わつてしまふことは、医師としても心残りではあります。高北病院のような地域に近い現場で診療できることは、医師にとつてとても大切な経験ができたように思います。今後とも人と人との出会いを大切に、患者さんと向き合っていきたいと思っております。

最後に、佐川町の皆様のご健康とご多幸をお祈りしております。

得平医師赴任のあいさつ

高北病院 内科医員

得平 卓也
えひら たくや

平成30年1月より内科勤務で赴任となりました得平卓也と申します。どうぞよろしく願ひいたします。神奈川県横浜市で育ち、平成26年に聖マリアンナ医科大学を卒業し、大学病院や分院で2年間の研修を行い、現在は消化器肝臓内科に所属しながら、内科専修医として様々な内科をローテーションしております。幼少よりピアノを習い、大学からはオーケストラでオーボエを演奏しておりました。学外のオーケストラ団体にも所属し、春・夏・冬に北海道、南は九州まで演奏をしてきました。機会がありましたら、皆様の前でも演奏できたらと思っております。

神奈川県から離れて医療を行うことは、今回が初めてであり、皆様にご迷惑をおかけするかと思います。少しでも高知の医療に貢献できればと考えております。3カ月という短い間ではありますが、何卒よろしく願ひいたします。

災害医療救護訓練

平成29年11月5日(日)に災害医療救護訓練が開催されました。この訓練は、毎年中央西福祉保健所・土佐市民病院・仁淀病院・高北病院が共催しているもので今年で6回目となりました。

今回は、中央西福祉保健所管内の医療機関、行政機関その他の団体の方々(総勢約200名)にご参加いただきました。

同日の午前10時に震度6弱〜7の地震が発生した想定で訓練を行い、医療救護所での一次トリアージから高北病院内での二次トリアージまでの訓練を実施しました。

今後も、定期的に災害医療救護訓練を実施し、災害が起こった際に迅速な対応ができるよう備えてまいります。

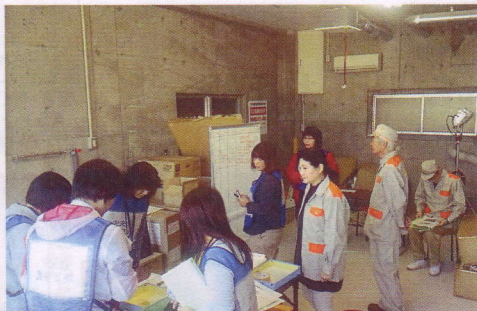
末筆ながらこの紙面をお借りして、ご参加いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

参加団体(五十音順)

石黒小児科、いの町役場、いの病院、井上病院、越知町役場、北島病院、くぼたこどもクリニック、くろしお薬局佐川店、高吾北消防本部、高北薬局、佐川警察署、佐川町食生活改善推進協議会、さくら病院、清和病院、たけうち調剤薬局、竹内神生館薬局こうほく店、中央西福祉保健所、土佐警察署、土佐市消防本部、土佐市役所、とさ薬局、土佐市民病院、仁淀歯科医師会、仁淀消防組合本部、仁淀病院、日高クリニック、日高村役場、ブルークロス佐川薬局、前田病院、森木病院、山崎外科整形外科病院、佐川町役場



佐川町食生活改善推進協議会の
みなさんの炊き出し



中央西福祉保健所のみなさん



一次トリアージのデモンストレーション